

生石神社

この神社の歴史は、日本中に疫病が蔓延していた西暦 97 年頃まで遡ります。先の景行天皇（西暦 25 年～130 年）の夢に二人の神が現れ、高さ 5.7 メートル、幅 6.4 メートル、厚さ 7.2 メートル、重さは約 453,000 キログラムの巨石である石の宝殿を祀る神殿を建てるよう告げたと言われています。

その一枚岩は岩盤の空洞から 3 面で立ち上がり、そのうちの 1 面には円錐形の突起があります。基部には池があり、見えないところにある柱の上にあるため、岩が浮いているように見えます。古くからその特徴的な姿と特異な位置から神聖なものと考えられ、「浮石」とも呼ばれていました。神社のご本尊（ご神体）です。

本社は天保 13 年（1844 年）に建立された木造建築で、流れ造（非対称の入母屋）の屋根が特徴です。1807 年に建物が焼失した後、檜皮葺の屋根が再建されました。1979 年にヒノキの樹皮から銅板葺きに置き換えられました。

舞殿、または前殿は、入母屋造りの木造建築です。19 世紀半ば頃に建てられたと考えられています。こちらも拝殿と同じく 1807 年に焼失し、その後再建されました。現在は神社の受付として使

われています。

詰所本殿前の絵馬殿には算額が多数安置されています。これらは、江戸時代に算幾何学愛好家がその解答を奉納し、全国の神社仏閣に安置したのが起源と言われています。